

8-10		主題	見つけた！自分たちの介護スタンダード	
経管栄養者の個別ケア		副題	～経管栄養者に寄り添ったら見えたこと～	
介護の標準化				
研究期間	13ヶ月	事業所	特別養護老人ホーム 世田谷区立上北沢ホーム	
発表者：笠原 吉郎（かさはら よしろう）			アドバイザー：三好邦（医師）、鶴町哲也（医師）	
共同研究者：中浜崇之（介護福祉士）、亀井直子（看護師）、落合美夏（理学療法士）、曾我小百合（栄養士）				
電話	03-3306-5155	メール	kamikitazawa@setagayaj.or.jp	
FAX	03-3306-1222	URL		

今回発表の事業所やサービスの紹介	世田谷区社会福祉事業団が運営する平成11年設立の区立施設です。ショートステイ利用者を含む120人の要介護高齢者が生活しています。特養入所者の平均要介護度は4.3、認知症日常生活自立度Ⅲ以上者77人です。医療的ケアを要する入所希望者は多く、また増加しています。現在経管栄養者（胃ろう造設）は16人です。健康管理体制として、週1回の配置医師回診の他、夜間は看護師1人を含む6人の夜勤体制を敷いています。
------------------	---

《研究前の状況と課題》 上北沢ホームでは、入所者一人ひとりがもつ欲求や希望、嗜好、生活信条等を尊重し、実現に向けて支援することをケア理念として、「生きる力の支援」と呼ぶ個別ケアを推進している。 しかし、経管栄養者等の高医療依存入所者は、入所時或いは退院時等に、医師から様々な生活上の制約指示が課されることが多い。 生活の場である特別養護老人ホームでは、経管栄養者も他入所者と同様に、入所者自身が生活の主役としていきいき暮らせるよう、「生きる力の支援」を行うことが、我々の使命であると考え、すべての入所者に対して実践を積み重ねてきた。 試行錯誤しながらの個別ケアの中で、医療的リスクを伴う経管栄養者の生活欲求や希望の実現に向け、私たちは何を根拠としてケアを進めていけばいいのか、特に、次の4点即ち①支援プロセス②ケア手法③効果検証④リスク回避の考え方を整理する必要性が課題として明らかになった。	《研究の目標と期待する成果》 経管栄養者への「生きる力の支援」実践事例を検証することの意義、目標は、次のとおりである。 【目標】現在上北沢ホームが行っている「生きる力の支援」手法を分析基準に用いることにより、個別ケアを事例で終わらせるのではなく、経管栄養者への支援プロセス、ケア手法、効果測定、リスク回避の考え方を、全職員が実践できる形に「見える化」（標準化）する。 また、期待する成果として、次の3点を挙げる。 ① 医療依存度の高い要介護高齢者に対しても、本人主体の生活を支えるケアを、「かみきたスタンダード」の一環として実施することができる。 ② 今後も増加すると思われる、医療的ケアを要する要介護高齢者の介護ニーズに応用するためのケア基盤を作ることができる。 ③ 他施設や医療機関との意見交流の契機、また在宅要介護高齢者への支援等に活用することができる。
---	---

《具体的な取り組みの内容》

1 分析・検証の方法

平成22年4月から平成23年5月までの期間に上北沢ホームに在籍の経管栄養者延べ24人の実践経過及びケア内容等について、次の観点から分析・検証した。

(1) 支援プロセスについて

- ①通常の支援プロセスとの相違の有無と内容
- ②医療的リスク回避のために行った行為の内容

(2) ケア手法について

上北沢ホームの介護理念「かみきたスタンダード」に基づき実践しているケアについて、次の観点から分析・検証した。

- ①本人の「ああしたい、こうありたい」希望や欲求、生活信条等のニーズ把握、アセスメント方法
- ②離床、トイレでの排泄、口腔ケア、味覚刺激、外出等の上北沢ホームのケアスタンダード実施の可否、実施手法及び留意点等

(3) 効果検証

「生きる力の支援」の効果指標として、次の3つの観点から分析・検証した。

- ①自立度の変化②意欲の変化③関係性の変化

(4) 医療的リスク回避の方法

医師の指示内容の他、発生したトラブル、予測したリスク、ケアへの反映策等について検証した。

2 まとめ

個別事例ではなく、上記検証項目に沿って分析した結果を文字化や数値化し、「かみきたスタンダード」に載せる形で、できるだけ一般化した。

《取り組みの結果と評価》

1 事例分析・検証の結果

経管栄養者への「生きる力の支援」実践にあたっては、支援プロセス・ケア手法・効果検証・リスク回避法のいずれも、基本的に、上北沢ホームが行っているケアマネジメントや「かみきたスタンダード」と同様に行えることが検証できた。

(1) 支援プロセス：説明・同意プロセスとケアプランの活用が重要。また、ケア開始或いは中止の判断基準を明確に設定しながら進める。

(2) ケア手法：短期サイクルで具体目標設定し多職種で共有、協議、協働することが重要である。

(3) 効果検証：「かみきたスタンダード」の3つの指標は活用でき、また効果を可視化できる。

(4) リスク回避：経管栄養者に共通のリスクに関しては、基本留意点として一般化できる。また、医師や家族を含む多職種で認識共有の上、協働することが重要である。

以上により、経管栄養者に対して、「生きる力の支援」を全職員体制で実施するための根拠となる共通基盤を作ることができた。

また、ショートステイサービスや相談援助事業を通して、在宅の経管栄養者への支援に、今後更に積極的に取り組んでいくための基礎となった。

《まとめ》

経管栄養者のケア理念を「見える化」することで、組織としての実践力向上につなげ、また、様々な介護ニーズに対応できる応用力を身につけ、一貫して入所者の尊厳を守るケアを実践していく。

《提案と発信》

上北沢ホームで「生きる力の支援」と呼ぶ個別ケアは、誰にでも生活欲求やこだわり、生活信条等の「生きる力の源」があり、それを尊重し実現への支援をすることで、ご本人が主体的に張りをもって生活していただける、というケア理念に基づいています。私たち介護に携わる職員は、「お一人おひとりの生きる力の源」から決して目をそらさずに支援すること、それがその人の尊厳を守ることであると考えています。

【メモ欄】

07